

**製品名: RIPK2 (リン酸化 Ser176) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06070**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	61kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RIPK2 CARDIAK RICK RIP2
別名	Receptor-interacting serine/threonine-protein kinase 2 (EC 2.7.11.1) (CARD-containing interleukin-1 beta-converting enzyme-associated kinase) (CARD-containing IL-1 beta ICE-kinase) (RIP-like-interacting CLARP kinase) (Receptor-interacting protein 2) (RIP-2) (Tyrosine-protein kinase RIPK2) (EC 2.7.10.2)
遺伝子 ID	8767.0
SwissProt ID	O43353
免疫原	ヒト RIPK2 由来の合成リン酸化 (Phospho-Ser176)

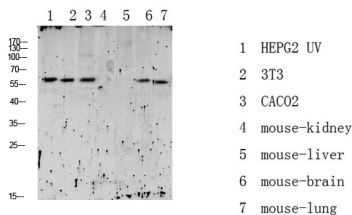
## 背景

この遺伝子は、セリン / スレオニプロテインキナーゼの受容体相互作用タンパク質 (RIP) ファミリーのメンバーをコードします。コードされるタンパク質はC末端カスパーゼ活性化・リクルートメントドメイン (CARD) を含み、自然免疫経路と獲得免疫経路の両方におけるシグナル伝達複合体の構成要素です。NF- $\kappa$ B の強力な活性化因子であり、様々な刺激に対するアポトーシス誘導因子です。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: プロカスパーゼ1およびプロカスパーゼ8を活性化します。CASP8を介したアポトーシスを増強します。NF- $\kappa$ Bを活性化します。PTM: 自己リン酸化されます。DNA損傷時に、おそらくATMまたはATRによってリン酸化されます。類似性: プロテインキナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのCARDドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CFLAR/CLARPおよびCASP1のCARDドメインを介して結合する。BIRC3/c-IAP1、BIRC2/c-IAP2、TRAF1、TRAF2、TRAF5、およびTRAF6に結合。TNFRSF1AおよびTNFRSF5/CD40受容体複合体の両方の構成要素となる可能性がある。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、末梢血白血球、脾臓、腎臓、精巣、前立腺、膵臓、およびリンパ節で検出される。

## 研究分野

NOD様受容体;神経栄養因子;

## 画像データ



各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は1000倍に希釈した。二次抗体は1:20000倍に希釈した。